

2026年3月12日

各 位

会 社 名 プレミアアンチエイジング株式会社
代表者名 代表取締役社長 松浦 清
(コード番号：4934 東証グロース)
問合せ先 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長
上原 祐香
(TEL. 03-3502-2020)

2026年7月期第2四半期（中間期）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2025年9月11日に公表いたしました2026年7月期第2四半期（中間期）連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2026年7月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異（2025年8月1日～2026年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A） （2025年9月11日）	百万円 8,000	百万円 150	百万円 150	百万円 100	円 銭 11.47
実績値（B）	7,342	626	676	445	51.08
増減額（B - A）	△657	476	526	345	
増減率（%）	△8.2	317.5	351.2	345.4	
ご参考：前中間期実績 （2025年7月中間期）	8,528	977	970	581	66.67

2. 差異の理由

2026年7月期中間連結会計期間においては、当社で行っているアンチエイジング事業について、新規獲得の回復に時間を要している通信販売の売上が計画を下回ったことに加え、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上也 EC モールを始めとする競争激化の影響を受け計画を下回ったことから、全社売上高は計画を下回る着地となりました。

一方利益面では、リカバリー事業において、ブランド認知向上やリカバリーの啓発活動に係る広告宣伝投資を積極的に推進したものの、アンチエイジング事業においては、新規獲得の広告効率が十分には改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったことに加え、コスト構造改革の推進

により人件費や業務委託費等の固定費の削減が計画を上回って進捗しました。その結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益ともに計画を上回る結果となりました。

第3四半期以降の売上高については、当社のアンチエイジング事業を取り巻く事業環境は引き続き厳しく、通信販売及び卸売販売に加え、期初からの環境変化により、中国市場についても慎重な見方を継続しております。またリカバリー事業についても EC モールを始めとする競争激化の影響を慎重に見極める必要があります。

一方利益面では、第3四半期以降、アンチエイジング事業においては、通信販売における新規獲得や既存顧客の転換率向上に向けた施策を、卸売販売においては SNS 媒体を通じた発信や美容家・インフルエンサーとのタイアップ企画等、さまざまな広告・販売促進投資を積極的に推進する予定です。またリカバリー事業においても、ベネクスブランドの認知を高め、更なる売上成長を促すためのマーケティング投資を予定しています。

これらの理由から、2026年7月期連結業績予想につきましては、2025年9月11日に公表した金額から変更しておりません。

今後、業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに公表いたします。

以上